

# 『04.負担の少ない高齢者見守り』 テーマ詳細説明

担当課：健康福祉局 高齢企画課

## 仙台ヘルステックコンソーシアム 課題解決コース

# 04. 負担の少ない高齢者見守り

少子高齢化、核家族化が進展する中で増加する一人暮らし高齢者を支援するため、見守る側・見守られる側の双方に負担をかけない見守りを実現することに役立つソリューションを募集します。

### <背景>

- 少子高齢化、核家族化が進展する中、一人暮らし高齢者は多く、今後も増加していくことが想定される。（2019年時点で65歳以上の高齢者の内、一人暮らし世帯の割合は28.8%）そのため、社会的に高齢者見守りの必要性がますます高まっている。
- 仙台市では、高齢者見守りの支援として、ボタン一つで警備会社へつながり警備員が駆け付けるという緊急通報システムを提供している。しかし、利用者（高齢者）が助けを呼ぶ際に自ら機器のボタンを押す必要があり、自発的にアクションができない場合に機能しない仕組みである。また、緊急時に利用されるものであり、日常的な閉じこもり等を検知するものではない。
- 見守り用カメラのような既存ソリューションは、利用者の自発的なアクションを必要としない一方で、監視されているような感覚を与える場合があり、利用者の負担となるケースも多い。
- 見守りの必要性が高まる中で、見守る側（普段から様子を見る、緊急時に駆けつける、等）の人手不足も顕在化している。

### <課題/実現したいこと>

- 高齢者見守りの必要性が高まる中、見守る側・見守られる側の双方の負担を極力抑えつつ、高齢者を見守る仕組みを実現したい。特に、以下の点を前提とする。
  - 高齢者の尊厳に配慮し、監視されている感覚を極力与えないこと
  - 利用者（高齢者）の自発的なアクション（ボタンを押すなど）が無い場合でも異常を検知できる仕組みであること
  - 緊急時の通報、警備員等の駆け付けまでをソリューションの範囲に含めること
  - 固定回線が無い環境でも運用可能な仕組みであること
  - 導入・運用費用を極力抑えた仕組みであること
- また、離れて暮らすご家族も安心できる仕組みであるとよい。
- さらに、日常的な閉じこもり等を検知できるような緊急時以外の見守りにも活用できる仕組みが望ましい。
- 本テーマは、アイデア検証ではなく、技術的なソリューション（プロトタイプ含む）を用いた実証実験を前提とする。

# 仙台ヘルステックコンソーシアム 課題解決コース

## 04.負担の少ない高齢者見守り

### <補足情報>

#### ■ 仙台市の現状の取り組み

- [緊急通報システム機器の貸し出し](#)

条件に当てはまる65歳以上のひとり暮らし高齢者等の方に、緊急通報用の機器を月額535円(\*)を貸与。固定回線を利用した機器で、ボタンを押すと委託警備会社へつながり警備員が駆け付ける仕組み。

令和3年度利用者数：3,741人（障害者含む）

\*) 条件を満たす方には無料で提供。また、固定回線のない住宅に居住の方には無線式の機器を貸与するなどの有料オプションもあり。（無線式本体機器の料金（税込）：月額6,600円、工事費用3,300円）